

2. 逃げた王女たち (ミンダナオ)

昔々、時間の霧につつまれた時代、ダトウすなわち王が、三人の美しい娘と住んでいました。いちばん若い娘が七歳になった時、女王は亡くなりました。

ダトウと彼の娘たちは、女王の死に悲嘆にくれました。ダトウはすぐに、大変孤独で、憂鬱になりました。そして、三人の娘のために新しい母親を見つけることを切望しました。やがて、ダトウは、娘たちのよい母になるだろうと思って、新しい妻を見つけ、そして王国の仕事に専念するようになって、そして仕事でおそくなることを気にしていませんでした。

しかし、不幸なことに、新しい女王は陰謀をたくらみ、意地の悪い邪悪な女で、ダトウと結婚した唯一の理由は、彼の王国を支配するためだったのです。ダトウが帝国の運営で忙しい間、新しい女王は、三人の娘の生活を全く不幸なものにしました。彼女は、娘たちの王室での特権をすべて取り上げ、女中以上の何ものでもない立場に追いやりました。彼女は宮殿の床をゴシゴシ磨くように命じ、彼女の食事や服を作らせました。もし、娘たちが女王に従わなかったら、彼女たちを叩き、地下牢に何時間も入れて、食事も水も与えませんでした。

三人の王女たちは義母とのことでとても不幸になりました。しかし、父である王には何も言えませんでした。王は、彼女らを信じないかもしれないし、彼の心を傷つけるかもしれないからです。

ひどい扱いと虐待が悪い女王によって、三人の王女達になされた時、彼女たちは宮殿から逃げることを決断しました。そして、ある夜、誰にも告げず、父にさえも言わないで、三人の娘は静かに宮殿から逃げました。満月の光の下、彼女らは大きなボートに乗って、宮殿から出て、美しい静かな海を渡りました。

しかし宮殿では、女王は彼女の手にある第三の目の魔力を使って、三人の娘がボートで海を渡っ

ているのを見ることができたのです。これは、彼女の悪い計画を実行に移し、王国の支配を掴み取る絶好の機会でした。彼女は先ず、三人の娘を魔力で殺し、その父、王も殺すつもりでした。そうすると王国は彼女のものになるのです。

彼女の悪い心と魔法の杖の力を使って、悪い女王は静かな海に、自然の暗い力を呼び出そうとしていました。黒い雲がどこからともなく現れて、かがやく月を覆い隠しました。三人の王女は怖くなって、安心するために体をぴったりとくっつけていました。強い暴風がボートのまわりを吹き荒れます。大きな波が海に溢れて、助けのないボートに当たったり、返したりしました。強い雷のどろきが、暗い夜空にあり、おこった雲から光が広がりました。強い風が波立つ海を吹きまくりました。その怒りが、ボートと、恐れた三人の乗組員にぶちまけられました。そして、力ある火の落雷が天から落ちて、ボートを打ち、三つに破壊されました。三人の助けのない王女たちは、荒れ狂う海に投げ出され、激しい波の下に消えました。

王が宮殿に帰ってくると、彼は新しい王女が悪の力を使って、三人の娘を攻めているのを見て、彼は怒りました。王は宮殿の守衛から斧を取り上げると、力強く一振り、女王の頭を切り裂きました。女王は床に倒れて死に、彼女の悪の力は、もはやなくなりました。王は、三人の娘を生き返して、会うことができるかどうかかわからず、頭に手を置いて、跪きました。

その間に、夜の海は、風が平常にもどって、水はまた穏やかになりました。三人の王女は、それぞれ分かれたボートの一部にしがみついて漂流し、まだ生きていました。しかし、お互いに遠くへ離れて漂っていました。年長の王女は、北へ漂流、最も若い王女は南へ、第三の娘は難破した所に留まっていた。三人の王女とも、恐ろしい試練に疲れて、目を閉じました。そして、難破したボートのそれぞれの部分にくっついて、漂流しました。

朝、空に太陽が昇ると、夜明けに出発した漁師たちは、びっくりするようなものを見ました。三

つの新しい島が、夜の間にかけていたのです。北の島は「ルソン」。南の島は「ミンダナオ」。そして真ん中の島は「ビサヤ」。

今、王はもちろんはっきりはわかりませんでした。しかし、彼は三つの新しい美しい島が夜の間で起こって、それは三人の美しい娘が生活するために創造されたと信じました。それは、彼を大変幸せにしたのでした。